

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター

住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1

愛知県東大手庁舎 1階

TEL：052-954-6722

FAX：052-954-6993

開館：月～金 10～17時



第1回 ゆるりっと会

2月12日(日)小牧市にてゆるりっと会(交流会)が開かれました。参加された方からのアンケートや、聞き取りによる言葉をまとめたので、印象に残るものを掲載いたします。

2頁の新聞記事もご参考にしてください。

◆ ゆるりっと会(交流会)に参加して

- ・人付き合いが苦手です。今まで参加しなかったが、すごく楽しい時間が過ごせた事にびっくりした。
- ・美味しかったが放射能が気になるので食材の産地を細かく教えて欲しい。
- ・今まで交流会チラシはスルーしていたが珍しいチラシに目が止まりドキドキしながら来てみた。
- ・ハンドマッサージ楽しかった！確かに自分の美なんて忘れていた。気持ちよかったから家でもやります！
- ・ゆるりっと(会)のチラシを見てきつとこの人(井川さん)だと思って会ってみたくて今日来た。自分の気持ちを代弁してくれているようで嬉しかった。ずっと話したかった。次も絶対来ます。
- ・託児がすごく良かった！見てくれる人の人数が多くて付きっきりで見てもらえて安心して預けられた。大人同士でゆっくり話せて良かった。
- ・関東から来た私には交流会は敷居が高く感じて参加していなかった。でもチラシに栃木県から避難した私…と書いてあったので来やすかった。関東の人が沢山居て嬉しかった。
- ・あおぞらの手紙を泣きながら何回も読んだ。共感だった…。
- ・ゆるりっと会の為に私も何かお手伝いしたい。
- ・子育て世代が沢山で子育ての話で盛り上がり楽しかった！
- ・男同士で話せて良かった。今度旦那さんとライブを見に行こうと話したんだ！

◆ 参加者の近況

- ・夫婦仲が気まづくなって喧嘩が絶えない日々だったが、最近は原発のニュースを笑いにかえて、笑顔を絶やさないように心がけている。
- ・地元に残っている友人・知人との放射線に対する温度差を感じてしまい、疎遠になってしまっている。
- ・最近は帰りたいという気持ちもあるが「こっちでいいかな!」「家族が笑顔で一緒にいればいいじゃないか」と思えるようになってきた。

◆ これからしたいこと

- 食の安全 ●今住んでいる地域別にテーブルをまとめて欲しい ●名所めぐり・お散歩・山歩き ●子どもたちが楽しく遊べる事 ●子どもたちと遊びたい ●関東のお母さんの会 ●子どもと一緒に楽しめる企画 ●(今日聞いた医師の)早川先生の話をもっと聞きたい

◆ 東電の賠償について

- ・仮払いのことをうまく理解できていなかった。本払いから仮払い分が差し引かれることを知らなかった。
- ・住宅や土地の補償をしてほしい。今まで築きあげてきたコミュニティが無くなって苦労している。

◆ 仕事について

- ・将来は地元に戻るのでしょうかと言われてしまう。
- ・名古屋では就職がなかなか決まらず、静岡県の企業があたたく受け入れてくれた。

◆ 借り上げ住宅について

- ・子どもの学区を考えると別の所へ移るのは難しい。

◆ 病院・病気について

- ・病院で治療費についてのことを周知していないためにすごく待たされた。(具合を悪くしているのに辛かった)

Q：今後どれくらいの期間でもともと住んでいた地域に戻れると思いますか

	震災前→ 避難先	前回(10月)	今回	その理由は
江本潤子さん (39) パート	南相馬市 →名古屋	10年以上～ 20年未満	戻れないと 思う	人口減少などで地元 で暮らせるの不安
野田悦子さん (47) 主婦	富岡町→ 名古屋	10年以上～ 20年未満	20年以上	山林の除染など、ど か見当もつかない
大沼せりなさん (36) 主婦	双葉町→ 茨城県 安城市	10年以上～ 20年未満	20年以上	生まれたばかりの子 どもがおり、安全が 確認されてから
青木幸夫さん (84) 無職	富岡町→ 茨城県 豊橋市	戻れないと 思う	5年以上～ 10年未満	町役場の除染の様 子をテレビで見て、 待たわいた
女性 (68) パート	南相馬市 →岐阜	1年未満	1年未満	緊急時避難準備区 域が解除されたから

東海の原因避難者

故郷帰りた いけど

「生活不安」「安全確認までは」

朝日新聞社と福島大学・今井照研究室が実施した原発事故による福島県からの避難住民の第3回調査では、帰郷できる時期の見通しについても聞いた。東海地方に避難している人たちでは、避難生活がより長引くと予想した人が多い。

「今後どれくらいの期間で、もともと住んでいた地域に戻れると思いますか」との問いに対し、3人が、昨年10月の前回調査よりも長くなるかと答えた。福島県双葉町から愛知県安城市に避難している大沼せりなさんは「10年以上、20年未満」を「20年以上」に変えた。昨年6月に長男を出産。戻りたい気持ちは変わらないが、「除染が終わり、元の住民が戻ってから」と考える。

富岡町から来た野田悦子

さんも今回「20年以上」と回答。「2回、一時帰宅し、荒れた自宅の様子を見た。戻るのは大変だ」。南相馬市から避難している江本潤子さんは「戻れないと思う」とし、「人が減れ

ば、地域の経済も回らなくなる」と答えた。一方、富岡町出身の青木幸夫さんは「戻れない」を「5年以上10年未満」に変えた。「町役場で除染が始まった。民家でも進むの

では」。岐阜市に避難している南相馬市出身のパートの女性は、昨年9月に原発20km圏内の緊急時避難準備区域が解除されたことをふまえ、前回と同じ「1年未満」を選んだ。

豊山町に母子2人で避難した橋内美紀さん(32)もその一人。「同じ境遇の人が呼びかけた会と知り、気持ち分かってもらえるはずと思った。来てよかった」と話していた。

交流会に自立の動き

避難生活が長期化するなか、各地で開かれてきた避難者交流会にも変化が生まれた。愛知県では、これまで県被災者支援センターが主催してきたが、徐々に避

難者自らが呼びかける形も増やそうとしている。当事者が主体になって支え合うことで、自信を取り戻してほしいと考えている。

井川さんは栃木県那須塩原市から親子4人で自主避難し、小牧市で暮らしている。被害が大きかった東北の出身ではなく、「自分にはふさわしくない」と、交流会に出ることをためらってきた。同センターの担当者から「同じ思いの人もいるはず。自分で呼びかけてみては」と助言を受けた。

生活協同組合コープあいち参与で、同センタースタッフの向井忍さん(55)は、避難者を訪ねて回るなかで、支援に感謝しつつも、複雑な思いを抱いている人が多いと感じたという。「震災前は自立して生活してきた人たちがばかり。『支援を受けるだけでなく、自分も力になりたい』と考える人は増えている。当事者の支え合いを側面から手助けするのが、センターの役割だと思う」と話している。



避難者が呼びかけて開いた交流会。ハンドマッサージをしあうリラックスタイムもあった＝愛知県小牧市の総合福祉施設ふれあいセンター

今日は楽しく過ごしました。愛知県小牧市の施設で12日あった交流会。会を呼びかけた井川景子さん(29)があいさつした。

豊山町に母子2人で避難した橋内美紀さん(32)もその一人。「同じ境遇の人が呼びかけた会と知り、気持ち分かってもらえるはずと思った。来てよかった」と話していた。

(黄瀬)

義援金のこと。赤十字のこと

昨年 3 月 11 日に起きた東日本大震災は、東北地方を中心に未曾有の被害をもたらしました。死者・行方不明者が約 2 万人、全・半壊の住宅が 37 万戸、今年 1 月を過ぎても 33 万人以上の方が避難生活を続けています。

日本赤十字社では、地震の発生直後から災害救護活動を展開し、その日のうちに全国の赤十字施設から東北地方に向かって 55 の救護班が出動しました。最終的には、全国 92 の赤十字病院から 6,500 人以上の救護員を派遣し、9 月末までに岩手県、宮城県、福島県の 3 県を中心に 87,000 人以上の被災者の方々を診療しています。

また、被災者の方への義援金の受付についても主要な役割を果たしています。2 月 3 日現在、268 万 7,460 件を受け付け、その金額は 3,089 億 0,840 万 7,117 円となり、その大半は既に被災地の行政機関に送金されています。この義援金についてですが、実際にどのように扱っているのかとよく質問をいただきます。

中には、一部が赤十字の救護活動に使われているのではないかと懸念されている方もいらっしゃるかもしれませんが、市町村役場などの行政機関を通



じて、全額が被災者の方に現金で届けられているので、その点をご安心ください。

現在は、復興支援活動として、赤十字は被災地で様々な取り組みを展開しています。特に、自宅を離れ仮設住宅で過ごしている方を対象にした「こころのケア」活動や、スクールバス・給食運搬車の提供などの教育支援プログラムに力を注いでいるのが特徴です。

最後に、これまで赤十字という名前は聞いたことがあるけれど、この震災をきっかけにテレビや新聞を通じて活動が紹介されるのを目にするまで、実際にはどんな団体なのか分からなかった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。公務員なのでは？と聞かれることもあります。

しかし、実際私たち日本赤十字社は、税金ではなく、一般の方や企業から提供された寄付金を活動資金として国内外の救護活動や医療事業などを行っている民間の団体なのです。AED の使い方や心肺蘇生法などの皆さんが参加できるプログラムも用意しておりますので、これを機会に赤十字に関心を持っていただけると嬉しいです。

日本赤十字社愛知県支部企画課 津村慎太郎

なっ得! ~ Q & A ~

Q 避難者ではあるものの、やってもらっているばかりではなく、自分でも何かやれることはないかと感じている。

A こうした思いを感じている方は、他にもいらっしゃると思います。交流会に参加することに始まり、「あおぞら」に手紙を投稿したり、ボランティア活動を試みたり、支援している人たちのお手伝いをしたり、一緒に企画を考えてみたり。

当支援センターでも、そうしたきっかけをこれからたくさんつくっていきたくと考えています。無理なくできることから動き始めて頂ければと思います。いつでもご相談ください。

愛知県被災者支援センター：052-954-6722
(愛知県被災者支援センター 山田 高広)

第2回 子育てつどいの広場 in 瑞穂区

日時：2月19日(日)10:30～14:00

場所：ボラみみより情報ステーション

主催：NPO 法人 ボラみみより情報局

避難者参加者数：7世帯、大人7名、こども10名

今回も0～3歳児とそご家族の方々対象のイベントを開催させていただきましたが、たくさんの方に参加していただきありがとうございました。

開催場所も前回同様、普段からお子さん連れのお母さん達が遊びに来る屋内型の公園のような所なので、お子さんには思いっきり遊んでいただきました。今回はお母さんたちの交流も十分できるよう、セルフドリンクコーナーを設けました。こどもたちはスタッフと一緒に遊んでもらい、こどもたちと同じスペースの中でしたが、お母さんたちに情報交換をしていただく事ができたと思います。今回は弁護士の方がお二人みえていたので、法的な相談も多少できたように感じました。そして、お帰りの際は、様々な企業や団体から協賛品や多くの方たちからお寄せいただいた絵本やおもちゃなどを皆さんにお土産に持って帰っていただきました。

なお、お帰りの際に書いていただいたアンケートで複数のお母さんたちの要望として、小児科の先生の話が聞きたいという事でしたので、実現で



きるよう各方面に相談していききたいと思います。

お知らせを2つ。

- 1) 第3回は2012年3月18日(日)に開催します。只今参加申し込み受付中(3/14 締切)です。
- 2) ボラみみより情報ステーションは、日・祝日をのぞく、月～土曜日の10時～16時(火・土曜は12時～)に開設しています。通常、入会金が必要ですが、「あおぞら」をご持参いただければ、入会金不要です。3月15日まで。詳しくは、ボラみみより情報ステーション

boramimist@yahoo.co.jp まで

〒467-0842

愛知県名古屋市長久手市瑞穂区妙音通 2-40

横山ビル1階

TEL：080-4228-5356 (10時～16時)

(NPO 法人 ボラみみより情報局 スタッフ)

行っ得!～イベント情報～

3.11 揚がれ!希望の風

日時：3月11日(日)13:00～15:30

場所：愛・地球博記念公園(モリコロパーク)

大芝生広場

長久手市茨ヶ廻間乙1533-1

申込：不要

問合せ：名古屋YMCAボランティアセンター

TEL：052-932-3366

(詳細は同封のチラシをご確認ください)

チェコの森 2012

日時：3月17日(土)開場13:15 開演14:00

場所：豊田市民文化会館(大ホール)

× 切：3月8日(木)18:00(先着10名)

問合せ：トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部

トヨタボランティアセンター

TEL：0565-23-3583

(詳細は同封のチラシをご確認ください)

半田少年少女合唱団 第35回定期演奏会

日時：4月1日(日)開場13:30 開演14:30

場所：半田市福祉文化会館(雁宿ホール)

申込：不要。同封の『鑑賞券』に必要事項を明

記し、当日「招待受付」に提出のこと。

問合せ：半田少年少女合唱団事務局

TEL：0569-49-2522

(詳細は同封のチラシをご確認ください)